

令和元年度 第1回小牧市まち・ひと・しごと創生推進懇談会 議事要旨

日 時	令和元年 11 月 8 日（金） 13 時 30 分～14 時 50 分
場 所	小牧市役所本庁舎 6 階 601 会議室
出 席 者	山下 史守朗 （小牧市長） 【委員】（名簿順） 成瀬 友晃 名古屋鉄道㈱ 名和 千博 小牧商工会議所 水野 有香 名古屋経済大学 伊藤 博美 相山女学園大学【座長】 田中 秀治 小牧市社会福祉協議会 坪井 俊和 大城児童館 【地方創生アドバイザー】 西村 健 日本公共利益研究所 【事務局】 駒瀬 勝利 市長公室 秘書政策課長 安藤 誠 市長公室 秘書政策課 市政戦略係長 倉田 和典 市長公室 秘書政策課 市政戦略係 【小牧市まち・ひと・しごと創生推進委員】 小塚 智也 市長公室長 石川 徹 市長公室次長 入江 慎介 市長公室地域協働担当次長 長尾 正人 総務部次長 竹内 隆正 地域活性化営業部次長 林 浩之 市民生活部次長 伊藤 俊幸 健康福祉部次長 櫻井 克匡 こども未来部次長 前田 多賀彦 建設部次長 鵜飼 達市 都市政策部次長 梶田 達人 上下水道部次長 松浦 智明 市民病院事務局次長 高木 大作 教育委員会事務局次長（学校教育担当） 松永 祥司 教育委員会事務局次長（社会教育担当） 船橋 嘉成 会計管理者 高橋 博之 副消防長 伊神 彰 消防署長
傍 聴 者	2 名
配付資料	資料 1 委員名簿・配席表 資料 2 第 1 期小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価検証シート 資料 3 小牧市人口現状分析 参考資料 1 小牧市まち・ひと・しごと創生推進懇談会設置要綱 参考資料 2 まち・ひと・しごと創生基本方針 2019（国） 参考資料 3 第 2 期小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略等の策定に係る基本方針 参考資料 4 小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業一覧表（平成 30 年度） 追加資料 令和元年度小牧市まち・ひと・しごと創生推進懇談会委員・質問一覧表

1. 開会

あいさつ

【市長あいさつ】

大変お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。日ごろは、各市政の推進に格別の御理解をお示しいただきまして、厚く御礼申し上げます。

国が地方創生を掲げて、基礎自治体が総合戦略を策定し取り組みを始めまして、はや5年が経過をしているところでございます。本市におきましても地方創生の実現に向けて、この5年間計画に基づきましてさまざまな取り組みを進めてまいりました。

総合戦略につきましては、今年度計画期間が終了することとなっているところでありますが、国におきましては地方創生の真価を図るため、第2期の総合戦略の基本方針について示されたところであります。小牧市におきましても、地方創生の取り組みの充実強化を図るため、第2期総合戦略を策定することとしており、本懇談会においては、この5年間の総合戦略に基づく取り組みの総括をしつつ、第2期総合戦略の策定につなげてまいりたいと考えております。

資料にもございますとおり、この5年間努力を重ねてまいりましたけれども、目標値に到達していない項目もございます。これらを少しでも解決をしながら、本市の地方創生を実現していくため、委員の皆様方のそれぞれの知見に基づいた闊達な忌憚のない御意見をいただきまして、本日の会議を有意義な会議にしていきたいと思いますというふうに思っております。よろしくお願い申し上げます。

【伊藤座長あいさつ】

市長からもありましたように、国のほうが第2期の基本方針を出されたということで、それを見てみますとグローバルとローカルの間を揺れ動く中で、我々のような小さな自治体はどう動いていくか、特に人づくりというか、人とネットワークをつくっていくということが課題となっていることがわかって、市長もおっしゃいましたけれども、指標のところではなかなか成果が出ずにいるところ、国としても大きな流れで同じく課題を抱えているということで、恐らくてこ入れが図られると思いますけれども、地方での取り組みというのもまた今後大事なところになると思いますが、まずは1期のことを総括していただいて、2期に向けていい形というのを御提案いただければと思います。よろしくお願いいたします。

2. 議題

（１）第1期小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価検証について

○事務局より、資料2に基づき、説明。

【事務局】

それでは、資料2小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略評価検証シートをご覧ください。冒頭ございましたように、今年度は第2期総合戦略を策定するに当たりまして、現行の第1期総合戦略の達成度を図るため、指標の達成度という項目を新たに追加しております。表の右から2列目になっております。判定区分は3つ、マークとして晴れマークと曇りマークと雨マークとしております。昨年度実績で基本的にはつくっておりますが、平成30年時点で目標値を達成している指標は晴れマーク、平成30年度の時点では目標値をまだ達成していないものの、計画期間最終年度の今年度までに達成が見込まれるものについては曇りマーク、そして平成30年度で目標に達成していなくて、今年度中の達成も難しいのではないかとという指標については雨マークとしております。

それでは、基本目標ごとに説明をさせていただきます。

まず、1 ページ、基本目標 1 持続して発展を続ける産業・経済の確立による雇用の確保・創出であります。こちらでは、まず数値目標を製造業及び卸売業、小売業の従業者数としております。基準値は平成 26 年時点 53,093 人、目標値を平成 31 年度で 54,359 人としております。平成 30 年度の実績が 54,645 人ということで、市内従業者数も増加傾向にありますので、達成度は晴れマークとしております。

そして、基本目標 1 の施策に対する重要業績評価指標（K P I）、こちらは 6 つの指標を置いておりまして、そのうち 5 つの指標で達成度が晴れマークとなっております。晴れマークでない指標は、施策 3 (1) 中小企業次世代成長産業設備等導入補助金、こちらにつきましては、平成 30 年度実績で 5 件の認定がありましたが、目標の達成はちょっと難しいかなということで雨マークとしております。こちら、分析と課題というところにもありますが、次世代成長産業の設備投資の促進には制度の周知だけでは不十分ということで、設備導入に関するノウハウや知識の強化が課題と考えているところです。

続きまして、2 ページ、3 ページをお願いいたします。

基本目標 2 若年世代の希望がかなう結婚・出産・子育て環境の整備（こども夢・チャレンジ No.1 都市の実現）ということでもあります。こちらでは、数値目標を 3 つ設定しております。

1 つ目が合計特殊出生率、こちらは基準値が平成 25 年時点 1.54 で、目標値を 1.61 としておりますが、直近の公表している数字は平成 29 年ですけれども、実績値が 1.44 ということで、今後目標達成が難しいと考えておりますので、達成度としては雨マークとしております。

2 つ目です。年少人口の数でありますけれども、こちらも目標値 21,314 人に対しまして、平成 30 年度の実績は 20,246 人ということで、既に目標値よりも低い数字となっております。指標の達成度を雨マークとしているところです。

そして 3 点目、安心して子育てができるまちと思う子育て世代（20 歳から 40 歳代）の割合であります。基準値は平成 26 年度時点 59%、目標値は 70%としております。平成 30 年度実績では 67.6%ということで、年々実績値のほうは上昇しておりますので、達成が見込まれるということで曇りマークとしているところです。

こちらの 3 つにつきましては、子育て世代に対しまして安心して子育てができるまちという認識度が高まっているというものの、実際に合計特殊出生率、そして年少人口の数というところの改善に結びついていないということが見えてきました。これに対して、子育て支援施策というものの検討をしていく必要があると考えています。

次に、基本目標 2 の重要業績評価指標（K P I）ですけれども、設定は 7 つしておりますが、そのうち 4 つの指標で晴れマーク、もしくは曇りマークで、達成見込としております。達成が難しい雨マークの指標につきましては、施策 1 (1) 市が支援した出会いの場を創出する事業におけるカップルの成立数、そして中央子育て支援センター、子育て広場の利用者数、裏面ですけれども、施策 2 (1) 夢サポーターの数、こちらの 3 つの指標が雨マークとなっております。一方で、施策 2 (2) 夢をもって生きる力を育む教育の推進については、2 つの K P I とも目標値を達成しておりまして、小・中学校の教育環境の整備は計画どおり進んでいるというところでもあります。

続きまして、4 ページ、5 ページ、6 ページ、基本目標 3 になります。都市の活力と暮らしの安心の創造、こちらでは数値目標を 3 つ設定しております。

1 つ目は、名鉄小牧線沿線の居住人口であります。基準値は平成 26 年度で 87,404 人、目標値は 88,602 人としております。平成 30 年度の実績で 88,704 人と既に到達をしているところでありまして、晴れマークとしております。市全体で人口減少が既に進んでおりますが、小牧線沿線地区の居住人口は増加しているところです。小牧線沿線で行われている土地地区画整理

事業の進捗によるものと考えられ、今後も事業の進捗によってさらに居住人口の増加が期待できるのではないかと考えております。

2つ目の数値目標が健康寿命であります。基準値からの延伸を目標値としておりますが、平成30年度の実績は男性が80.43歳、女性が83.93歳と年々上昇しておりますので、指標の達成度も晴れマークとしております。

3つ目が安全で安心していきいきと暮らせるまちと思う市民の割合です。基準値の60.0%からの延伸を目標値としておりますが、平成30年度の実績は74.5%ということで実績値も上昇傾向にございますので、指標の達成度は晴れマークとしているところです。この指標につきましては、防災や防犯、公共交通、そして福祉など複数のさまざまな要因が関連しておりますが、それぞれの施策の取り組みが効果を上げているところと考えております。

基本目標3で位置づけておりますKPI、重要業績評価指標ですが、10の指標を設定しております。そのうち5つの指標が晴れマークとなっておりますが、残り5つにつきましては雨マークとなっております。施策1(1)20歳から40歳代の名鉄小牧線の沿線居住人口、そして施策1(2)日常生活の中で5,000歩以上歩く市民の割合、そして各種がん検診の受診率、施策2(2)災害への備えをしている市民の割合、そして防犯カメラ設置補助件数、これら5つの指標につきましては、現時点におきまして目標値の達成が難しいと考えています。それぞれの要因分析等につきましては、恐れ入りますが資料に記載のものをごらんいただければと思います。

続きまして、7ページ、8ページをお願いしたいと思います。

4つ目の基本目標です。訪れたい、住みたい小牧の魅力発信であります。こちらでは、数値目標は20歳から40歳代の平均転出超過数を目標としております。こちらについては、基準値時点の61人の転出超過という状況からの改善を目標としましたが、平成30年度の実績では逆に437人の転出超過ということで、残念ながら年々転出超過が増加しております。したがって、指標の達成度は雨マークとしております。

要因であります。近年転出者数は横ばいという状況であります。一方の転入者が減少しているということで、転出超過の傾向が出てきております。なお、転入者向けアンケートを独自に市で行っております。こちらの調査結果によると、出産や就職・転職などのライフイベントのときに転出というところがありまして、また近隣市町の間での転出超過の傾向が出ています。これにつきましては、市内在住者の定住、また市外からの転入促進を図るため、小牧市ではブランド戦略による住み続けたいまちのPRを行っておりますが、それにあわせて転入促進に直接効果のある事業を推進していくことも必要と考えているところです。

ちなみに、次の議題でも御報告しますが、この転出超過の数値につきましては日本人のみの数値ということで、外国人を含めた場合、20歳から40歳代につきましては、平成30年度は逆転して転入超過という状況であります。

次に、基本目標4のKPIであります。8つの指標を設定しております。そのうち5つの指標が晴れマークとなっております。残り3つ、施策1(2)夢サポーターの数、施策1(3)小牧市歴史館の入場者数、施策2(1)主要なイベント及び地域資源への来訪者数、こちらは達成が難しいということで雨マークとしているところです。

資料2の説明は以上となりますが、本日追加で配付している資料をごらんいただきたいと思います。A3の両面刷りのもので、令和元年度小牧市まち・ひと・しごと創生推進懇談会委員意見・質問一覧表となっております。事前に評価検証シートをお送りして、それによりましてあらかじめ委員の皆様からいただいた御意見、そしてそれに対しての市の考え方についてまとめたものとなっております。時間の関係上この場での説明は省略させていただきます。

が、それぞれ御確認いただければと思います。

以上で、第1期小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価検証についての説明とさせていただきます。総合戦略に掲げた数値目標、そしてK P Iの評価、指標の達成度に対しまして委員の皆様から御意見をいただき、次期総合戦略の策定に反映させていきたいと考えております。以上です。

○質疑・意見の発言内容

【山下市長】

基本目標を1、2、3、4とそれぞれ全て重要であります、特に基本目標2以降のところは我が市にとって非常に雨マークが多くて、課題があるという認識でおります。

基本目標1について少し補足を兼ねて説明させていただきますけれども、産業面につきましては、小牧市はおかげさまで先人の御努力で、この尾張北部圏域では有数の産業都市ということで発展してきているところでございます。従業員数等も伸びている状況でありまして、今次世代産業への参入支援等の取組となっておりますが、この点につきましては今年4月に小牧市と商工会議所と連携をいたしまして、新たに新産業振興センターをオープンしたところであります。

企業誘致については市の業務ということで、取組を強化して進めておりますし、また企業の流出抑制も含めてやっておりますが、ここでの課題は、引き合いはあるけれども、なかなか紹介できる土地が少ないといった現状もございまして、そういったことも含めて今対策を進めようとしているところであります。

会議所では、特に中小企業の経営支援等について、会議所の業務ということで頑張っていたいているわけですが、これからの新産業への進出支援とか、あるいは今の生産性確保等への対応について、やはり市と会議所が連携して専門家のネットワークを活用しながら、新たな取り組みを進めていこうという思いの中で新たなセンターを設立したところでありまして、今雨マークになっているところも含めて産業面については、そうした意味ではこれからもしっかりと取り組みが進めていけるのではないかと、市としては考えているところであります。

いろいろな状況を見ますと、これは我が市だけの問題ではないけれども、我が国全体の問題として、製造業に偏った産業構成であるということが上げられますが、日本の今のGDPと雇用者数の製造業でカバーしている割合とか、世界のこれからの経済の流れなんかを考えますと、情報通信産業などの知識産業関連についての新たな産業創出というのは非常に重要だろうと思っています。

ただ、これについては、日本全体としても難しい課題で成功体験が少なく、これまでの製造業での成功体験が非常に大きかったので、我がまちもまだまだ、どちらかというと製造業に重点を置いた産業振興支援策に偏っているというところは現実的にあると思っていますが、正直なかなか知恵や対策がないというのが現状でありまして、今後を見据えるとそのあたりが課題なのかなという認識は持っております。いいお知恵をいろんな方からいただきながら進めていかなければいけないと思います。

【名和委員】

今市長がおっしゃられましたように、製造業というのはある行政区を支えていく、そういう面もあるかと思います。ただし、そこで得た利益をどういうふうにまちに落としていただくということもやっぱり重要になってきます。と申しますのは、私は商工会議所から出向させていただきまして、特に商業面からの発想で発言させていただきますが、やはりまちの活性化を

支えるのは商業であると考えます。商業が活性化しないと、まちそのものは沈滞化してしまいますし、お金そのものもよそへ行って落としていくことがやっぱり考えられます。そこで、今後図書館も駅前にできますし、小牧の一番の場所というやはり中心市街地、その中心市街地で図書館をコアとして発展させていくことが必要であります。

そこで確認ですが、創業支援セミナーで実際起業された方の人数というのも中にはありますけれども、これの商工の内訳がわかれば教えていただきたいということと、もう一点、新しい次世代の成長分野に対しては非常に力を入れられているということも重々わかりますけれども、それ以外に私が申し上げましたような事業者の活性化にかかわる今後の取組とかを教えてくださいと幸いです。

【小牧市まち・ひと・しごと創生推進委員 竹内次長】

まず、1点目の創業支援セミナーの受講者におかれて、最終的な業種の内訳について、手持ち資料はありませんが、いわゆるサービス業的なものでの起業で、製造業とかそういう起業はほとんどなかったと記憶しておりますので、やはり商業ですとかサービス業が主で皆さん開業・起業しておられます。

【名和委員】

それとあわせて、中心市街地の話はまた別の委員会になるかもしれませんが、やはり中心市街地というのは小牧市民にとってすごく気になる場所なんですよ。その場所というのは先ほど申し上げましたように図書館をコアとして、こども未来館もできますが、その周りのラピオ通りですとか商店街が活性化しているかということ、実はそうではない。今後あのあたりを活性化して、小牧をいきいきとしたまちにしていくためには、やはりあのあたりの商業の活性化は必要ですが、それに対しては何かお考えなのかということをお伺いしたいと思います。

【山下市長】

今産業、雇用ということで基本目標1の議論になっているわけですが、まちの活性化という意味では商業、サービス業、この点非常に重要だというのは私も認識は一緒であります。

特に、今後基本目標2以降に結びついていく中で、当然市内の従業員者数とか、働き手ということも大事でありますけれども、居住にもつなげていきたいということもありますし、また定住人口のみならず交流人口も非常に重要でありますから、そういう意味では、市内の活性化という意味では商業・サービス業の発展も大事だろうと。

ただ、この点について従来から苦慮はしておりますが、以前は商店街に向けて年間300万、400万とかカンフル剤的な補助金とかあったんですけれども、最近そういった時代は過ぎ去りまして、商店街振興というのは限界という認識が全国に広がっている状況と私は思っています。その中で、中心市街地というのは非常に重要で、まちの核というのは絶対不可欠だという認識は全く私も同感です。

ですから、今駅前の再生が長らく放置されてきたものを再起動させて、もう一遍頑張ろうじゃないかということで、さらに取り組みを進めている状況であります。図書館は再来年の令和3年3月オープンを目指して工事をスタートいたしましたし、ラピオという再開発ビルの商業再生は非常に厳しい状況でありましたので、1階に地権者床を集約化して、1階のスーパー、テナントは継続していただきながら、2階以上については（仮称）こども未来館の整備も着工して、これは来年の夏過ぎ、秋口ごろにはオープンしたいということで進めております。

そういう状況の中で、周辺の波及効果ということですが、なかなか周辺の民間地権者の土地等に公共は直接手を出せませんし、以前のような市が買収も含めて大規模に土地を整理しながら再開発をやるという手法は、正直昔の失敗体験がありますので、なかなか手を出し

づらいというのが現実です。

私どもの今の思いとしては、やはり図書館とこども未来館、核をつくりながら人の流れを変えて、今まで来なかった人が中心市街地に来るような、そういった中核施設を公共で整備する中で周辺への波及効果というのを狙っていきたいということ。これは完成後の流れをつくっていくために、今後実は中心市街地のグランドデザイン戦略会議を今年度新たに立ち上げて、別の場でも議論していこうというような時点に今立っているということです。

1点だけ課題認識を申し上げますと、周辺の商店街であったところは空き店舗が目立っていますが、実は出店ニーズは非常にあります。例えば飲食業等、出せる場所があったら出したいと、借りられるところがあったら借りたいという話はよく聞きますけれども、借りるところがない、出せるところがないというのが現実であります。地権者の方も空いていても、火を使うような店とか煙が出るような店とかにおいが出るような店、いわゆる飲食には貸したくないという方も結構多くて、実はミスマッチがそこで起きているというのが今の中心市街地の大きな課題だろうと思っています。

どこかのまちの以前の取組のように、地元で不動産会社をつくってそういった管理、コーディネートまでやるのかというようなところも、これは議論があるところかと思いますが、現状そのあたりを含めてどうなるかというところがこれからだと思っております。

【西村地方創生アドバイザー】

主要施策の成果説明書 150 ページに新産業創出事業があって、その中にロボット産業への参入を検討する企業を対象にセミナーを開催したとあり、非常にいい取組だと思いますが、具体的にどういったセミナーをして、参加者はどういう人たちが来て、反応はどうで、やっぱりロボットを導入しなくちゃいけないと思っているのか。もうちょっとこういうふうには産業の投資をしてこういうことを考えていきたいとか、どういう意見や声とか、結果として小牧市にどういった影響がありそうなのかみたいなのところの見解を補足していただくと、未来産業というところで非常に着眼点がいい取組をされているので、ありがたいです。

【小牧市まち・ひと・しごと創生推進委員 竹内次長】

ここ3年、4年の間に航空宇宙関係とか次世代自動車とか、毎年テーマを変えて、30年度がロボット産業への参入という形で、講師をお招きして関係企業が積極的に参加をしていただいたということまではつかめているんですけども、基本的には市内・市外を問わずこの小牧の取組に着目していただいた企業も一部来ていただいたようですので、取組としてはやはり市の姿勢を見せる意味ではよかったのかなと思います。

【西村地方創生アドバイザー】

若干補足させていただくと、ロボットとか非常にこれからの未来であつたり非常に重要になってくる部分がありまして、私、実は今年から事業創造大学院大学の研究委員になって、今年3、4回中国へ行ってまいりまして、広州市だったり上海だったり行ってみると日本はもう置いていかれているなという印象を如実に感じます。

それを考えると、大阪市でも市税の収納に関しては携帯・スマホで収納できるようにはなっていますが、話を戻してロボットなどに関しては非常にもう置いていかれており、もう追い付けないと追いつけ追いつけなくちゃいけないという認識をお持ちの企業も出てくるので、非常にこのロボット産業の企画はすばらしく、ぜひそういったことを内部で共有していただきたい。ここの場では結構なので、市役所の内部で共有していただくと非常にいいかなと思います。

あと、パイソンというプログラミング言語がありまして、AIとかをつくるプログラミング言語なんですけど、今学んでいます。なぜかという、多くの市役所などで予算がないので、ちょっと言い方は厳しいですけども、大手サプライヤーのパッケージソフトとかは何千万とか何億円とか買えないような状態なので、本当に昨日聞いたのは財政力指数0.17ぐらいの

自治体のところになると、係長が自分でシステムをつくっている。そこは水道管が破裂しちゃうんですね、マイナス4度ぐらいになると。その水道管が破裂した現場へ行って、どこにあるんだ、それで直したりとか漏水しているんじゃないかとか、それを発見するようなシステム、予測するシステム、気温であったり状況であったり、そういったものでデータを分析するシステムを1人で開発された方がいて、そういう時代になってくると思われまして、やっぱりこういうロボット産業についてのプログラミング言語の、多分市役所側も見目であったり、商工会側との連携も含めて、市役所の職員にもそういうようなプログラミング言語のちょっとした勉強会だったりとか、そういったことをやっていくというのも非常にいいんじゃないかなというのは、御提案としてあります。

小学生はこれから義務化されるにしても、市役所に入るまでにはあと何年かかるんですかね。15年かかる前に、企業の方も含めながらオープンイノベーション的なことをやっている、多分新聞とかに取り上げられて、小牧市さん、何かすごい、子育ての何とかアプリがどうのこうのみたいになり、それは皆さんのいいサイクルを回すと思いますので、その点、何かぜひ考えていただけるといいかなあと思いました。

【水野委員】

今の小牧市の産業政策は製造業を中心に、雇用を増やすという意味では工場が1つできるとかなり大きいというのは確かにあります。また、商業の活性化の話が今出たんですが、これからは少子・高齢化の中で、少子・高齢化に関連する産業をいかに育てていくかという点も大切です。そこではロボットも絡んでくると思いますし、人のケアには労働力が多く必要です。少子・高齢化に関連する産業の活性化は、子育てしやすいまちづくりにも繋がりますので、力を入れていくというのも一案だと思います。

【山下市長】

少子・高齢化の中での産業という話ですが、ちょっと勉強不足であります、その分野はどちらかというと福祉のイメージが非常に強くて、雇用はもちろん生みますけれども、我々のほうでいくと逆に予算で見ると事例が非常に多いんですね。保育の分野もそうですし、介護の分野もそうですし、そこら辺で、いわゆる雇用という面ではそのとおりですが、産業面ということを考えたときには、ちょっと我々もう少し勉強しなきゃいけないと思っています。

【田中委員】

福祉介護分野の仕事の効率化という部分は、やっぱりロボット・AIというのが必要と思っています。ただ、なかなか私ども、必要と思っても企業との接点というところでは、勉強できないところがありますので、その辺の切り口を見出しながら共同研究みたいなことがやれたらいいかなと思っています。

【山下市長】

水野委員からの御意見の趣旨と若干ずれたかもしれませんが、当然そういった少子・高齢化の中での人員は必要で、でも実は人手不足になっている分野があるものですから、やっぱりそういったAIとかロボットを活用しながら、人力は省力化をしながら地域を活性化する分野へ傾注していけないかというのは率直な気持ちですけど、どうでしょう。

【水野委員】

子どもと高齢者の分野は福祉という意識が強いかもしれませんが、拡大が期待できる産業分野としても捉えることはできないでしょうか。例えば子どもについては、親や祖父母が1人の子どもに対して多くの費用をかけるようになってきています。教育、つまり出生時から始まる幼児教育、習い事や塾の分野、民間の学童保育、在宅病児保育などが挙げられます。小牧市がこのような企業とコラボすることも考えられますし、公的サービスプラスアルファの部分を充実させることで、さらに子育てしやすい街を目指せるのではないのでしょうか。

【山下市長】

研究させていただきたいと思います。

【伊藤座長】

私からも少し補足をしたいと思いますが、今、家事代行であるとか介護保険サービスからはみ出た部分ですね、あるいは年齢がまだそこまで行っていないけれどもケアをしてほしい、家族内ではまかないきれないケアをしてほしいというニーズはたくさんあるはずで、その辺のニッチを埋めるような産業というものが始まっていますし、そちらのほうをサービス業という形で雇用創出に生かしていただけるといいのかなと思います。それが一番必要なのは、やっぱりワーク・ライフ・バランスで、20代から40代の共働きのカップルというのが安心して子育てができて、なおかつ子育ては消費財ですので楽しめないといけない。その意味では、小牧はすごく先進的な夢育みという楽しめる事業を幾つか持っていて、すごく魅力的ですが、やっぱり住んでいただかないといけないので、その点について少し名古屋鉄道さんの成瀬さんから御意見があれば伺いたいと思いますが、いかがですか。

【成瀬委員】

小牧線沿線、小牧市の駅につきましては、おかげさまで乗降人員は増加傾向にあるといったところでございます。こちらにつきましては、小牧口のバリアフリー化工事といった駅の利便性向上等もあるかと思いますが、平成14年度に上飯田連絡線が開通し、直通で名古屋に出ている、そういった利便性向上が寄与し、沿線人口も増えていると我々としては考えているところでございます。

【伊藤座長】

ありがとうございます。

あと、やっぱりお子さんが楽しめる状況とかも、児童館の坪井さん、いかがですか。

【坪井委員】

こども未来館ができるということは、とても自分たちがどのようにすみ分けできるか、児童館でやっているのはエリアごとのとても手厚いサービスをさせてもらっていると思うんですが、未来館がもっとそれを超えていくような、プログラミングができる部屋も用意してもらっていますので、先進的な部分、やっぱり未来を感じるものをどこまでやるか、そういう中でヒントをいただいたオープンイノベーション的な場を、児童施設としてつくられますけど、どれだけ多世代の人が関わって子供たちとお互い成長していけるような場ができるのかを期待していますし、やっぱりそれを僕らはつくっていかなくちゃいけない立場でもあると思っています。

（２）第２期小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について

・事務局より、資料３、参考資料２・３に基づき説明。

【事務局】

それでは議題２、第２期の総合戦略の策定について説明をさせていただきます。

まず資料３のほうで、本日、まず小牧市の人口の現状分析を行った内容をまとめた資料を出しておりますが、その前に、まち・ひと・しごと創生総合戦略をめぐる国の動き、また市の第２期の方針について参考資料をつけておりますので、そちらをごらんいただきたいと思います。

参考資料２のほうをお願いします。

こちらは国の方針の資料となっております。１枚目の下の段にありますように、まち・ひと・しごと創生総合戦略、現行の戦略につきましては2019年、今年度までの５年の計画ということで、次期総合戦略としましては2020年からの５カ年の計画が予定されております。そ

れを受けまして、小牧市でも来年度から5カ年の総合戦略を策定する予定をしております。

スケジュールにつきましては、国のほうが6月21日に基本方針2019というものを策定いたしました。それを受けまして、本年7月に小牧市のほうも基本方針を定めております。その基本方針が参考資料の3となっております。

参考資料3、第2期小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略等の策定に係る基本方針をごらんください。

2の策定の視点というのがあります。こちらにありますように、小牧市では国の動きを受けて、国と同じ令和2年度から6年度の5カ年の計画期間とすること。そして、国・愛知県の第2期総合戦略、現在小牧市で策定中であります小牧市の最上位計画のまちづくり推進計画、こちらを踏まえた計画とすること。そして、戦略の基本方針、こちらにつきまして、国のほうでは「継続を力」というように、現行の第1期の基本目標を継続する方針でございますので、小牧市でもその基本目標は継続する方針であります。

また、(4)にありますように、国のほうで新たに示した6つの視点というものをできる限り反映したいと考えております。この中には、これまで委員の皆様から御議論のありました新技術であるSociety5.0や、最近よく話題になっておりますSDGsのこういったものが含まれているところであります。

今後のスケジュールとしましては、国のほうが長期ビジョンや第2期の総合戦略案につきまして年内に示すということをおっしゃっておりますので、市のほうはその動きを受けて第2期総合戦略の案などをつくってまいります。そのため、お示しできるのは年明けになるかと考えているところです。

したがって本日の会議では、まず小牧市の人口についての現状分析を行ったものについて、まず皆様に御報告したいと思います。

それでは、資料3のほうにお戻りいただきたいと思っております。

資料3、小牧市の人口現状分析についてで、まず1ページです。総人口の推移ということで、こちら2015年、平成27年に15万3,700人余ということで、小牧市はここをピークに、現在徐々にではありますが、人口減少の局面に入っております。

2ページ以降では、その詳細分析を行っておりますが、まず日本人・外国人別の推移となっております。過去5年の比較では、日本人人口が減少しているのに対して、外国人の人口は増加傾向となっております。トータルとして、外国人人口の増加によって小牧市の総人口の減少幅を抑えているというような状況です。

下段の参考で囲ってあるものが小牧市の外国人の国籍別の順位となっております。従前はブラジルを初めとする中南米系の外国人市民が多かったのですが、近年ではベトナムやフィリピンなど、アジア系の外国人市民が増えてきているというような特徴がございます。

3ページをお願いいたします。

年齢3区分別の人口推移となっております。見ていただくと分かる通り、年少人口は減っている一方、老年人口、こちらについては右肩上がりが増えておりまして、少子化・高齢化が同時に進展しているということがうかがえます。

4ページです。出生と死亡に係る人口増減、自然動態の推移です。

これまで出生数が死亡数を上回る自然増の状況が続いておりましたが、2016年を境に死亡数が出生数を逆転して、自然減の状態に小牧市はなっております。

5ページをお願いいたします。合計特殊出生率の資料です。

小牧市の合計特殊出生率は、近年、全国平均と同じぐらいではありますが、愛知県平均と比べると下回っているというような状況であります。

6ページ、こちらは未婚率の資料となっております。経年で言いますと男女とも未婚率は上

昇しております。未婚化・晩婚化が進行しているような状況となりますが、ただし、女性未婚率につきましては全国平均よりも低いというような状況が出ております。

晩婚化・未婚化に関しまして、7 ページ、8 ページにはアンケートの集計結果を載せておりますが、こちらはちょっと説明を省略させていただきます。

9 ページです。こちらは転入・転出に係る人口増減、社会動態の推移となっております。この転入・転出につきましては、日本人・外国人で差がありましたので、分けて分析を行っております。まず、9 ページは日本人の転出入者数ですが、近年は転入者数が減少しているという結果で社会減、マイナスとなっております。

そして、10 ページが外国人の転出入者数、こちらは一番下の表をごらんいただきたいと思います。外国人のみの社会動態、直近の5年間では転入が転出を上回る社会増が一貫して続いております。その結果、10 ページのグラフにありますように、日本人と外国人を合わせますトータルでは、直近2018年では社会増、プラスというような現象となっております。

11 ページ、12 ページ、こちらは男女別、そして年齢階級別の人口の移動状況になります。左側11 ページの日本人のみは、20 歳代後半から30 歳代前半で、男女とも転出が超過しているという状況であります。右ページ、12 ページでは、外国人を含めると、逆に20 歳代は転入超過となっております。このことから、20 歳代の労働力としての外国人市民の方が多く小牧市にはいらっしゃるというようなことがうかがわれます。

次に、13、14 ページをお願いいたします。

小牧市と他地域間での転出入の状況です。左側の資料を右側の地図に主な地域を落とし込んでおりますが、矢印を見ていただくとわかりますように、小牧市から外に出ている矢印が近隣市町間で多くあります。豊山町を除いて近隣市町間で転出の方が超過しているというような状況になっております。

15 ページをお願いいたします。小牧市の昼間人口比率となっております。

小牧市は御存じのとおり市内に事業所が多くありますので、昼間の従業者の流入者数というものが流出者数を上回る流入超過の状況であります。平成27年の国勢調査の数字では、昼間人口比率は117.7%ということで、愛知県の平均の101.4%よりも高いというような状況になっております。

そして、16 ページ、17 ページのほうをお願いしたいと思います。

少し視点を変えまして、小牧市内の地区別の人口の状況を分析してみました。16 ページは6 地区別の人口の経年推移について、そして、17 ページは、同じく6 地区別の高齢化率について比較をしております。16 ページ、人口増減としては、篠岡地区、小牧市東部地区のほうですが、減少が続いております。17 ページ、高齢化率をごらんいただきましても、他の地区に比べまして篠岡地区の高齢化率の上昇が目立っております。篠岡地区の中に桃花台ニュータウンがあります。その桃花台地区をさらに分析したところ、その傾向がさらに出てきているということがわかりました。

以上、少し説明がはしょった部分もございますが、資料3、小牧市人口の現状分析の報告となっております。この分析内容をもとに人口ビジョンの改訂版として今後取りまとめていきまして、第2期総合戦略策定の基礎としていきたいと考えております。説明は以上となります。

○質疑・意見の発言内容

【山下市長】

私から2点。今回、人口減少をどう対処するかということが小牧市にとっても重要な課題として、当然ながら自然増減と社会増減があるわけですが、合計特殊出生率については、これは小牧だけでは何ともならないという思いがありまして、やっぱりこれは価値観の問題

もありますし、ライフスタイルの問題もありますから、働き方改革もありますけれども、国全体の中でこれは考えて、社会全体として取り組む必要があると思います。

我々は、第1期でも取り組んできた社会増減の中で、これは転入出の中で小牧からの流出が顕著な傾向で出てきますので、特に結婚・出産・子育て期の男女の転出をいかに抑制しながら、むしろ転入をいかに促していくのか、こういった計画のスキルになっているということだと思います。このスキルが今までいいのかどうかという議論もあると思いますが、基本的には、我々としては社会増減の中で自治体としては対応していかざるを得ないということを、まず確認をしておかなきゃいけないと思っております。

そうした中で、何がその要因なのかということの中で、対応を間違えると一生懸命やってもしょうがないので、とりあえず仕事面については先ほども議論がありまして、またいわゆる子育て面だとか生活面についても力を入れてきているんですが、市としていかんともしがたいところが、やっぱり交通の便ですとか都心へのアクセスの問題、名古屋都心へのアクセスの問題ですとか、そういったものについては、なかなか市単独で問題解決はできない。名鉄小牧線が今平安通まで延伸をして、これは小牧市の悲願だったわけですがけれども、地下鉄接続がなくなって、非常に名鉄沿線の人口が伸びて、これは区画整理の相乗効果で伸びているものでありますし、それはいいんですが、本来は、さらにその先までの地下鉄の延伸という計画はあるんですが、今2回乗りかえないと名古屋駅には行けないので、こういったことは我々としては非常に強い希望を持っているんですが、なかなか市単独ではこういったことの開発は難しい。隣の春日井ではJRが走っていて名古屋駅まですぐ近いのと、また西側のほうも名鉄犬山線が走っていきまして、これも非常に名古屋に近いということで、小牧市は狭間にありまして、公共交通、都心アクセスの脆弱性ということについては非常にビハインドであるということは、なかなかそれは難しいことだと考えてます。

転出超過の要因分析とあわせて的確な対策を講じていけるかというところが、ひとつ第2期総合戦略に向けてしっかりと取り組まなければいけない鍵かなと思っております。

その点で、人口推移の分布があり、地区別でこれは人口推移だとか高齢化率は出ているんだけれども、もう少し詳しく、特に今ターゲットとしている20代から40代の転入出について、地区ごとに、やっぱりこれはどこに出ているのか、例えば桃花台、篠岡方面から春日井が多いとか、そういった点について分析をもう少し詳しくやったらいいなと思います。14ページにある山口県だとか埼玉県なんかは、恐らくこれは会社の移転か何かでという、特定要因があるだろうと思いますが、やっぱり要因分析を的確にやりながら対策を打っていききたいと思うので、それが把握しているのか、可能なのか、ちょっと確認したいです。

【事務局】

今、地区ごとの転入出の特に年代別、今回ターゲットとしている20歳代から40歳の社会増減の地区ごとの分析はどうかということですが、すみません、現時点では、実はそこまでの集計ができておりません。恐らくできると思いますが、そのあたり、今後対応してまいりたいと考えております。

【山下市長】

ぜひお願いしたい。

西部とか東部とか名鉄沿線ということでもいいですが、地区ごとに何らかの傾向があるんじゃないかなというふうに、想像ですが思います。

【水野委員】

小牧市は外国人の流入が増えていますけれども、市としてどういう方針で外国人を取り扱っていくのかということをお聞きしたいと思います。また、内訳として学生や実習生の枠で入ってきている人々も分析すると、定着している人々なのか、ここである程度住んで国に帰

る、もしくはすぐに転出する人々なのかが見えてくると思います。

【山下市長】

外国人の方が非常に増えているという状況で、もうすぐ1万人に届こうというようなことを聞いております。やはりいろんな課題がありまして、定住化・移住化の傾向が強まってくることは間違いありません。ただ、日本人市民と外国人市民の交流というのは、私が知る限りはあまり生まれていないんじゃないかなと思います。15万市民のうちで1万人に迫るということになりますので、8月に多文化共生推進室という新たな組織体制をとりまして、市内の日本人市民と外国人市民の共生施策について、本格化していかなきゃいけないということで、今後、多文化共生推進プランの改定も含めて対応していきたいと考えているところであります。教育の問題だとか地域の問題だとか、いろんな課題がありますので、これは労働力ということだけではなくて、やっぱり地域に住む生活者としての視点で、外国人との共生施策をしっかり進めていく、そういった時期にはもう差しかかってきているということで、ちょっと対応を強化したいと思っています。

これについても今、水野先生から御指摘いただきましたけれども、10代、20代、非常に多いですが、こういった形態で市内に来て、あるいはこの年代は若いですから定住化・永住化傾向が全体として強まっているけれども、実際はどうなのかというようなことを含めて、ちょっと実態を把握しながら進めなきゃいけないと思うので、その点もまた計画に反映できればいいかなと思っています。

【伊藤座長】

私からも少し御報告したいと思いますが、前任校の名古屋経済大学のほうで少し調査をいたしまして、留学生もかなりの割合で定住希望をしております。日本の中をどこでということについては調査をしておりますが、かなりの学生が一定期間、あるいは定住ということを見越して留学をしておりますので、その点は近隣の大学として、てこ入れしてもいいかなと思っています。

【水野委員】

補足ですが、私が学生に聞いたところでは、四・五年働いて国に帰りたいという子たちが結構多いので、その学生たちを定住に繋げられるかという視点も必要かと思います。

【名和委員】

15 ページに小牧市の昼間人口比率というのがありますよね。これは、昼間は流入超過によって約118%になっておると。これは見方を変えると、住みたいまち小牧でなく、働きたいまち小牧ということなのかな。小牧市は大手企業が非常に多いので、多分他市町から来られるんですよね。私どもの会社を調べますと、大体小牧市民は47%ぐらいしかいないんですよね。その他は大体、春日井、これにあるように、名古屋ですとか小牧以外の地域ですよね。特に名鉄沿線のところから通われる方が、やっぱり通いやすいということで来られるんですよ。よく社員にも小牧に何で引っ越してこないんだという話をしたら、お金もないし、持ち家だし、なかなか転居できませんと。持ち家以外の方もさまざまな理由で、小牧は考えているけど、なかなか来られないという意見がありまして、そういう話をいろいろ考えたところ、これは費用対効果等もあるかと思いますが、例えば各企業に対して、小牧市のほうから小牧への転居を促進するための共同での補助金とか、そういったさまざまな施策や何かも組まれてもいいのかなと。要は、企業には法人税を落としてもらえばいいですけども、それをまた外へ賃金を持って帰っていただくよりも、やはり小牧で使っていただきたいですし、そのためには企業とコラボで小牧に住んでいただける方を促進するようなことを今後考えるのも一つの手かなと思いましたので、申し上げさせていただきました。

【山下市長】

ありがとうございます。そうですね、今の御意見は一度受けとめて考えさせていただきたいと思います。今うちがこの第1期計画の中でつくりました補助金は、三世代同居・近居住宅補助金ということで、もともとこちらに家がある御親族がみえる方が戻ってこられたりとかに對して対応しているんですが、単独で新たに小牧に来るという方に対応していないということがありまして、補助金等の効果についても十分にこれは検討しなきゃいけないんですけれども、企業さんとコラボしてということであるんですね。今の御意見については十分検討の余地があると感じましたので、一度検討させていただきたいと思います。

【伊藤座長】

恐らく今、20代から40代をターゲットとおっしゃっていて、そこら辺の晩婚化した人たちが出産をしているから、何とかかろうじてこのラインでもっているんで、2期の終わりごろに、正直この少子化の出生率というのがいけるのかというのが非常に危ない見込みがあるわけですね。となると、私たちが働きかけていかなければいけないのは恐らく10代後半、この5年間でということになっていくと、高校生・大学生ぐらいの年代に働きかけていくということは相当大的な次へつながるところであると思います。

もう一つは、働きに来ている単身者ですね、災害の対策もしていない人たちで、地域と溶け込んでいないという実態もあるし、先ほど市長もおっしゃいましたが、外国人の若年層も地域と浮き彫りになった形になっていて、共生が進んでいないということは大きな課題となっているんですね。15人に1人いる状態の中で、どれぐらいそこに共生を働きかけていけるか、小牧というまちを魅力的に感じてもらうか。その人たちが定住はしなくても、帰ったときに、やっぱり小牧というまちで働くよかったよと思ってもらう、これはものすごく大きなイメージ、グローバルに発信できるイメージにつながっていくと思うんですね。そこに関する若年層、特に単身者に働きかけというのも一つ考えておかないと、今の課題だけで見ていると多分間に合わないと思うので、そういう教育的な働きかけ、こま婚もそうなんですけど、結婚していただかないといけない、子供を産んでいただかないと人口増は見込めないという状況があります。

もう一つは、先ほど名和委員がおっしゃったように、交流人口というのは非常にアプローチできるところで、この転出の状況、図5はすごくわかりやすく、やっぱり持ち家がどこにあるのかということですね、企業さんと連携して、ここに何とか定住していただくように持っていくというアプローチは積極的に考えていけたらと思っています。

【西村地方創生アドバイザー】

皆さんの意見に賛同しているんですけど、僕のほうからは、委員というかアドバイザーという立場なので、2点ほどお伝えしたいと思います。

まず1つが、この達成度、市長さん以下、皆様、課題だとか、この雨傘マーク、かなり課題意識を持たれてすばらしいと思うんですけども、僕から見るとかなりよく、この日本の厳しい状況においてよくできているなと感じています。ほかのところから比べると全然できていないのもたくさんある中で、頑張っていらっしゃるし、それは皆さんの、市長さんのリーダーシップを初め、賜物だと思っています。

そういった中でちょっと感じるのが、この指標の数、とにかく多い。指標が多くて、実は僕のNPOでKPIをいろいろチェックしたりして、こんな指標を出してみたいなことを元石破大臣に言ったりしてけんかしているんですけど、国が出した指標も多過ぎているし、その指標をよく見ると、結局は世の中の外部要因であつたりとか、それに影響を受けて、こんなの達成できるわけないみたいな指標がたくさんございます。国自体も東京一極集中の目標を3年後でしたか何年後かに先延ばししたと。そういうところで、できないものはできないわけです。もうちょっと自然学的とか、マクロな視点で見ると絶対無理だろうみたいなものをたくさ

ん掲げることに本当に意味があるのかと。本音と建て前の逆じゃないですけど、皆さんはたくさんいらっしゃって、こんな指標をいっぱい書いて、それで僕らから質問をいっぱい受けて、いっぱい回答してというところの業務時間を考えると、かなり負担になると思いますので、第2期総合戦略策定のときには、本当に実効性であったり大きな戦略の中で重点度の高い指標であるとか、そこの重みづけであったりとか、簡潔化みたいなところを図っていただくというのが皆さん楽でしょう。もう達成できない指標について、文書をこねくり回す時間が非常にもったいないので、それはやっていただきたいのが一つです。

ただ、すごい頑張っている部分をどう振り分けるかという話なんですけど、この追加資料の基本目標3の6に僕が質問しているんですね。5,000歩以上歩く市民の割合の実態はどうなっていますか、数字を上げる中で重点的な対象はどうでしょうかということで、医療費適正化の研究をしているものだからちょっと言わせていただいて、方策としてはすばらしいところではあるのですが、目標は達成できていない。なので、どちらかという目標が達成できていない指標を中心に深掘りしていただく。僕はこの回答に対してもうちょっと突っ込みたくなるし、多分皆さんも一緒だと思います。そもそも何か目標値が高過ぎたとか、やっぱり能力はなかったのか、いや、何か裏事情があるのかとか、そもそも5,000歩以上歩く人は歩く慣習のある人だけであって、だから、そのどこに重点を置くところが考えていなかったのかとか、その考察をちょっとしていただくというところとかを深くというのを次年度にしたい。特に先ほど、転入・転出のところで地区ごとに見たいとか、それはやっぱり僕も一緒に、だから、地区ごと町名ごとに分析したりとか、その辺の何か深さを求めていただくといいんじゃないかなと。ある重点をとってそこを深くやっていただくと、より小牧市の地方創生において、皆さんいいサイクルが回ってくるんじゃないかなというのは思います。

【山下市長】

KPIが多過ぎだと。その業務量も大変だと。まさにその御指摘については多分いろいろ御意見があると思いますが、貴重な御意見だと思います。

私ども、最上位計画もそうですし、この総合戦略もそうなんですけど、おっしゃることはそのとおりよくわかるんですが、やっぱり一つには、何を解決しなきゃいけないとか、どうしなきゃいけないのかということがあるので、従来行政は結構行動目標的な指標を、これだけのセミナーをやりましたとか、これだけ施策を打ちましたみたいなことを挙げていましたが、そういったことではなくて、やっぱりアウトカムの指標をきちっと、本来目指すべきところを、それは当然ながら外部要因に左右されて、その施策が我々コントロールできるところが、もしかしたら20%か30%しかないかもしれないけれども、そこはやっぱり市民への説明責任をきちっと果たしながら、でも、やれることだけの目標を置いて、それをやっちゃうと多分やれることだけの目標になっちゃうもんですから、小牧市としては無理かもしれないけれども、ここに書いてある、例えば目標2の合計特殊出生率にしても、年少人口にしても、最終的に我々が負わなきゃいけないところは研究しなければならない原因の分析と対策ときちっとできていなかったら結果に結びつかないですから、目標を達成するためにどういう施策を行っているところに至るまでのそこが、実は我々も悩んでいまして、これを達成したい、例えば合計特殊出生率を上げたいし、年少人口を増加させたいし、人口も増加させたい、定住人口もね、だけれども、どうすればいいかということについて知恵を出しながらやっているんですが、そこが実際我々ができることとギャップがあるんです。ここを何とか行政だけでなく、企業や市民やいろんな方の協力を得ながら全体の総合力の中でどうするか。もちろん名鉄さんにも協力していただきたいし、いろいろな形があるので、今の御意見は非常に私もよくわかるんですけども、高い目標かもわかりませんが、本当に必要なKPIについては、やっぱり置き続けなきゃいけないと思っています。

【西村地方創生アドバイザー】

お話のとおりなんですが、マイレージ事業とか、ちょっと全体的な優劣で山下市長がこれはいふところがあれば伺いたいだけなので、全体を見ていて、こんなに書かなくていいのにみたいなのが、何個かあると思っています。

3. その他

- ・ 本日の会議内容について、委員確認後、市のホームページで公開することを報告。